

産業翻訳実務にフリーランス翻訳者が活用するツール類

目次由美子^{†1}

ビジネスの現場でニーズが発生する「産業翻訳」においては、翻訳作業自体の効率化や迅速化が求められてきた結果として、「翻訳メモリツール」などが普及してきた。一方、自らの翻訳作業に対する利便性を目的に翻訳者自身が独自に開発しているツールもある。その成果物が一般に公開され、フリーランス翻訳者間で多用され、翻訳実務におけるスキルとノウハウが幅広く翻訳業界に浸透するなど、相乗効果が得られている。本報告ではフリーランス翻訳者ならではの経験が活用されているツールに着目する。

キーワード: 翻訳, 用語集, ツール

Freelance Translators' Tools for Their Industrial Translation Works

YUMIKO METSUGI^{†1}

In the world of "Industrial Translation" where the needs of translation occur right in the business place, the effectivity and the speed-up have been requested for the translation tasks. As a result, such tool as CAT (Computer-Aided Translation tool) has been developed. On the other hand, there are tools developed by individual translators, looking for the conveniences on his or her own translation tasks. When their independently-developed tools become available in the public, the tools will be utilized among freelance translators. It is not simply to share the tool but also to share the know-how and skills for translation tasks and their effectivities. In this report, I focus on such tools indicate the experiences of those freelance translators.

Keywords: Translation, Terminology, Tool

1. はじめに

「翻訳」と一口に言っても、書籍として市販される文学作品、映画やテレビドラマの字幕など、世間には多様な翻訳の需要がある。中でもビジネスの現場でニーズが発生する「産業翻訳」においては効率化や迅速化が求められ、原文と訳文を対にしてデータベースに蓄積し、新規文書の翻訳作業において過去の訳文を流用するための「翻訳メモリツール」と呼ばれるソフトウェアが開発・販売され、産業翻訳業界に広く普及してきた。

翻訳メモリツールは翻訳工数の削減ばかりでなく、専門用語の統一性を向上させ、翻訳後のレイアウト調整作業を削減するという効果ももたらす。昨今では、原文のレイアウトやコンテキストを見ながら翻訳するためのプレビュー機能や、ソフトウェアのユーザーインターフェースを視覚的に確認しながら翻訳するためのローカライズ機能、複数の翻訳者を抱えるチームによる作業を円滑に進行するための自動ワークフローの機能も装備した「翻訳管理システム」などもランゲージテクノロジーベンダーにより開発・販売されている。

一方、フリーランスとして活躍している翻訳者個人が、自らの翻訳作業の効率化を主な目的としてツールを開発し

ていることがある。この成果物が一般に公開されることにより、他のフリーランス翻訳者に多用され、翻訳実務におけるスキルとノウハウが幅広く翻訳業界に浸透するなど、単なる翻訳ツールとしての利便性が共有されるだけでなく、翻訳という作業自体に対する取り組みや考え方もが伝播しているケースが見られる。

2. 個人翻訳者による開発ツール

翻訳者個人によって開発されているツールには、翻訳という作業に対する利便性が純粋に追求されている傾向が伺える。代表的なツールとその機能性の一部は以下の通りである。

(1) SimplyTerms でのテキスト抽出

翻訳対象のデータが MS PowerPoint 形式であった場合、「SimplyTerms」[1]という名前のツールでは、以下のような一連の操作が可能である。

- 翻訳対象ファイルの名前を付け替える
- PPT から翻訳対象テキストを抽出する
- 用語集を利用して専門用語を一括置換する
- テキストエディタ上でテキストに集中して翻訳する

^{†1} ログスター
LOGOStar

● 翻訳済みテキストを PPT へ書き戻す

専門用語を一括して置換するには、「用語集」を事前に用意しておく必要があるが、SimplyTerms には用語集を作成し、充実させる機能も装備されている。その他にも、行頭のスペースは一括して削除するなどの校正作業に貢献し得る機能や、ファイル内のワードカウントを取得するための機能なども搭載されている。つまり、テキストを翻訳するための機能のみではなく、用語集を構築する、請求書を作成するために必要な情報を取得するなど、フリーランス翻訳者ならではの実務経験に基づく機能が兼ね備えられている。

SimplyTerms のダウンロードサイトでは、開発者である翻訳者が自らの翻訳作業のために開発してきたツールであり、それを公開していることが明記されている。後続する多くのツールでは、SimplyTerms の影響が伺える機能が見受けられることもあり、個人翻訳者によるツール開発の先駆であるといっても過言ではないだろう。

(2) Wildlight での翻訳チェック

「Wildlight」[2]と呼ばれる MS Word のアドインとして機能するツールには、翻訳作業そのものよりも翻訳をチェックするための機能が豊富に装備されている印象を受ける。これは、開発者がコーディネーション業務に携わっている所以かもしれない。原文と訳文ファイルを指定して対訳表を作成する機能はチェック作業を容易にすることが想像され、Word 上のコメントや変更履歴を別のファイルに書き出す機能については、翻訳者へフィードバックを出す上での効率性が伺える。

Wildlight にも SimplyTerms の影響は濃く映し出されている。SimplyTerms で抽出したテキストには独自の「タグ」が混入される。Wildlight にはこのタグを非表示にするための「SimplyTerms 連携機能」が装備されており、翻訳テキストに集中することが可能となる。加工済みのデータは翻訳者への作業対象ファイルとして適切な形態で送信することができる。

(3) ばらばらでの一括置換翻訳

MS Word で上書き翻訳をするためであれば、「ばらばら」[3]と呼ばれる一括置換専用のツールが効果を発揮し、翻訳作業の高速化と高品質化をもたらす。タブ区切りの用語集を指定して、Word 上に開かれた文書の内容を一括して置換する。単純に置換するだけではなく、置換された用語はハイライトされる。用途の異なる用語集を複数指定することができ、用語集ごとに置換されたテキストのハイライトに使用する色を変えることもできる。

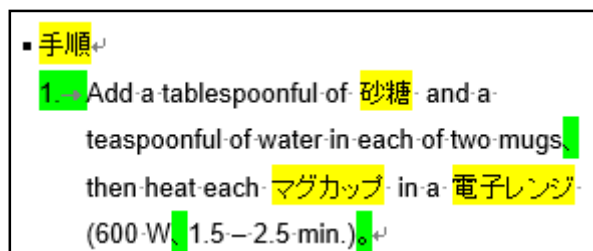


図 1 「ばらばら」での置換結果。

料理用語は黄色、句読点は緑色でハイライトしている。

ばらばらではテキストを単純に置き換えるだけでなく、ワイルドカードを使用できるため、用語置換が汎用的に機能する。たとえば「ピリオド」を「句点」に置き換えるにしても、「文末のピリオド」として定義することにより、文中に置かれる略語に伴うピリオドが誤って句点に置き換えられることはない。用語集は最大で 48 ファイルを指定でき、さらに英数字などに対して全角と半角を変換するような機能も兼ね備えている。

3. 考察

本報告の対象とした三つのツールいずれにも、用語集ファイルを利用した一括置換機能が装備されている。これは、翻訳作業における重要性を示していると考えられる。単純に「用語を一括して置換する」機能のみではなく、クライアントや分野ごとに用語集ファイルを作成する、翻訳案件ごとに用語集を更新するといった機能が搭載されており、用語を管理することの必要性が示されている。

本来、翻訳作業にツールは不要である。しかしながら、ツールを使用することで達成できる事項もある。これが正確性を伴う「効率化」や「迅速化」であり、「用語の一括置換」という処理に代表されているように感じる。

翻訳を支援するための機能が豊富に搭載されたベンダーの高額なツールには、ユーザーや文書タイプによっては不要とされる機能が装備されていることも否めない。また、細かな操作を習得するには長時間を要することも想像される。翻訳業務に携わる個人により開発されたツールは一見して簡素だが、必要な機能が装備されており、開発者自身の翻訳作業に機械処理がうまく融合されている様子が伺える。

また、これら開発者たちの多くは営利目的でツールを販売しているのではなく、手間を費やした自らの開発製品を他の翻訳者にも利用してもらえればという謙虚な意向も明示されている。翻訳業界全体的な品質向上を目的として、無償でツールを配布している開発者もいる。他の翻訳者の利用により、汎用性がもたらされる様子も伺えるのみでなく、翻訳作業に取り組む上で必要とされる処理や基礎知識などの共有も示されている。開発に費やされる労力を考慮

すると、完全に無料ではないツールもあって当然のことと納得できる。

4. まとめ

ベンダーが販売するランゲージテクノロジー製品に対しては懐疑的な姿勢を取る翻訳者の存在も否めない。しかしながら、機械によりもたらされる迅速性・正確性は重宝すべき点もある。自らの翻訳作業をより効率化させるため、より良い翻訳結果を導くために自己流のツールなどを開発し、個人的なチューンアップを施している翻訳者が、その成果物であるツール類を公開することにより、他の翻訳者にもその利用法が伝わり、「翻訳」と呼ばれる作業の本質において重要な取り組みが伝播し、翻訳業界全体的な品質の向上がもたらされていると言える。

今後も、このような個人翻訳者たちによるツール類の開発・普及に期待したく、私自身も貢献したいと想いを新たにしている。

謝辞

本報告をまとめる機会を与えてくださった情報処理学会デジタルドキュメント研究会に深謝いたします。

本報告の対象としたツールの開発者である井口耕二氏 (SimplyTerms)、齊藤貴昭氏 (Wildlight)、新田順也氏 (ぱらぱら) に深謝いたします。

参考文献

- [1] “翻訳支援環境”.
<http://homepage2.nifty.com/buckeye/software/transtools.htm#simplyterms>
- [2] “Wildlight” <https://wordwildlight.wordpress.com/>
- [3] “ぱらぱら” <http://www.para2translation.com/>